

# なぎそ 議会だより

平成30年6月定例会・全員協議会



議会の眼：補正予算審議の時間帯に、南木曾小学校6年生の議会傍聴がありました（6月20日）。大勢の傍聴の中で議場の議論も活発でした。

- 6月定例会で審議した議案：簡易水道施設遠隔監視装置更新工事請負契約の締結など …… 18P
- 一般質問：8人の議員が質問 …… 19P～24P
- 補正予算審議：主な質疑（児童・生徒の防犯安全対策など） …… 25P～26P
- 全員協議会：議会と町の意見交換  
                   （南木曾「ウェルネス農泊」、空家等対策計画、  
                   老人福祉計画、障害者福祉計画など） …… 27P～30P
- 聞いて 私の思い：平成30年度妻籠地域振興協議会会長 伊藤金吾さん …… 31P

# 6月定例会 可決議案

●簡易水道施設遠隔監視装置更新工事請負契約の締結

契約金額

5464万5840円

契約の相手方

日本エンゼニヤ

株式会社

●空家の適正管理に関する条例の改正

空家等対策協議会の委員の定員を8名以内から、15名以内に増員するものです。

●過疎地域自立促進特別措置法、農村地域工業等導入促進法及び南木曾町企業振興条例に係る町税の特例に関する条例等の改正

農村地域工業等導入促進法が改正されたことによるものです。

●南木曾町企業立地の促進に係る固定資産

## 専決処分事項

●税条例の改正

地方税法等を改正する法律等の公布に伴う改正です。

●国民健康保険税条例の改正

地方税法等を改正する法律等の公布に伴い、国民健康保険税の賦課限度額、軽減の拡充、雇用保険受給者証の提示についての改正です。

●南木曾町営住宅等に関する条例の改正

元組団地を町営住宅の用途廃止により普通財産としたことから削除するものです。

●平成29年度一般会計繰越明許費の報告

町道大原線舗装事業、町道与川線・町道上の原線改良事業、橋梁補強事業など17件が30年度へ繰り越されました。

●事故の和解及び損害賠償額の決定

草刈機を使用中、小石が飛散し車両側面窓ガラスを破損させた事故についての報告です。

## 木曾広域連合 議会報告

木曾広域連合5月定例会の主な内容です。

●議会の議員の議員報酬などに関する条例の改正

新ごみ処理施設の建設工事が完了したことによる木曾クリーンセンター建設に係る委員会の削除と、「木曾寮あり方検討委員会」を廃止し「木曾寮建設検討委員会委員」を新設する改正です。

●情報公開及び個人情報保護に関する条例の改正

自己情報の開示請求に「死者を本人とする自己情報の開示」を加え、個人の知る権利を尊重し、広域行政に対する理解と信頼を深めるための改正です。

●指定地域密着型サービス事業者等の指定

指定地域密着型サービス事業者等の指定

●平成30年度介護保険特別会計補正予算(第1号)

3115万6千円を追加し総額41億907万8千円となりました。主に第7期介護保険事業計画の確定に伴う保険料の増加です。

●消防手数料条例の改正

危険物施設設置申請等の事務手数料の改正です。

●旧南部グリーンセンター解体工事請負契約の締結

契約金額 1億8360万円

工期 契約日から平成31年3月31日まで

契約の相手方 吉川・奥田建設共同企業体

●平成30年度一般会計補正予算(第1号)

5589万3千円を追加し総額40億2548万1千円となりました。主に人事異動に伴う人件費、移住コーディネートに係る経費、ケーブルテレビ光化促進事業などです。

●緑聖苑の民間委託の状況

契約金額 ※3年契約 4309万2千円

契約の相手方 株式会社炉研

●FTTH化の補助金申請状況

国からの内示により、CATV光化事業の、木祖村一部、王滝村全域、大桑村全域の3整備区域事業費は全体で9億2097万円余、約1968万円の減額となります。補助金充当率が20・33%に低下し、過疎充当分は6億7680万円と1億1502万円余の増加となります。

## 6月定例会 8人の議員が一般質問

- ◇安心安全な町づくり、馬籠峠の環境整備 (高橋)
- ◇地域おこし協力隊 (早川)
- ◇避難訓練 (松原)
- ◇放課後子ども教室、食品ロス問題3010運動 (伊藤)
- ◇ホテル木曽路 (赤坂)
- ◇なぎそミツバツツジまつり、観光客増加への工夫 (近藤)
- ◇障がい者福祉と高齢者福祉 (矢澤)
- ◇坂下病院、水資源保全 (坂本)

※一般質問の質疑内容は各議員の編集によります。

### 安心安全な町づくりを 馬籠峠の環境整備を



高橋 進

#### 大沢田川の改修、 国道256号の 緊急避難場所を

**質** 梨子沢豪雨災害復旧工事が完了し、工事で小学校付近のわん曲部分が改良されたが、隣の大沢田川にもわん曲部分がある。昭和41年の災害では、役場を始め鉄道、住宅や工場などが大きな被害を受けているが、安全面の検証はされているか。

**答** 大沢田川については、平成26年の災害後に上流を調査しました。その後、治水砂防堰堤の新設と大堰堤の土砂を1万2千㎡除去したことで、当面は土砂を捕捉できる

と考えています。大きな被害を受けたことをふまえ、今後も国や県へ要望していきたいと思えます。

**意見** 付近では、森林管理署の改築や、住宅・会社が多くあるわん曲部分へは堤防のかさ上げなども必要と思われるので、さらなる要望をお願いしたい。

**質** 国道256号は、木曾と飯田方面を結ぶ重要な道路であり、通行制限や通行止めの際には迂回路となっている。

**答** 清内路峠からは急カーブや下り坂が連続し、事故も多く発生しているため、対策として緊急避難場所が必要と思われるが、国道256号は、交通量も多くなっていますので、カーブや下り坂にはスピード注意の看板を設

置し、注意喚起を行っています。エスケープゾーンについては、昨年度も要望しています。場所の選定などを含めて、引き続き、検討・要望していきたいと思えます。

#### 観光客に向けた 馬籠峠の環境整備を

**質** 中山道を訪れる観光客が増加しており、馬籠峠を歩く人たちが増えているが、トイレがないため設置が必要と思われるが、馬籠峠には、以前はトイレがありました。一石板の

**答** 馬籠峠には、以前はトイレがありました。一石板の



馬籠峠から木曾方面を見る

トイレを整備したこと、馬籠宿清水地区に設置されていたことにより廃止しました。設置については、観光協会などとも協議し、検討したいと思えます。

**質** 馬籠峠(木曾方面)の眺望について計画は。

**答** 峠付近の南木曾町側は、中津川市有林であり保安林です。景観眺望整備については、保安林作業手続きや予算の問題もありますが、木曾郡では景観整備を推進していきますので、今年度内に行えるよう努力しているところです。

#### ホテル木曽路の 経営者交代による影響は



赤坂 孝

#### ホテル木曽路の これから

**質** ホテル木曽路は、経営者が交代となり存続が決定された。現在、8月オープンに向けて改修工事が進められている。

**答** 経営者の交代により、既存従業員の再雇用、新規従業員の募集で、

約100名近い雇用となっている。住民票転入届での人口増加数は、ホテル業界の人は住民票を異動せずに入居していき、現段階での具体的な転入者数は不明となっています。従業員の方が町営住宅大島団地へ入居する予定が1件あります。定住化対策にもつながっているものと思えます。

**質** 企業のネームバリュー、シャト

ルバス・ライナーバス運行による、観光経済面への相乗効果は。

●答 ホテルでは、年間宿泊客数8万人、平日の客室稼働率80%超を目指すという目標を掲げています。町としても期待しています。個人客をメインターゲットとしているので、町への経済効果としては、駐車場を含めた妻籠宿などの来客数増加につながると考えられます。

●質 町内の他事業者や施設、イベントなどへの経済効果は。 ●答 木曽観光連盟と温泉協会に加盟していただきましたので、ホテル利用客が他の施設へ立ち寄っていただけるよう、連携していきたいと考えています。

●質 町全体での税収面の経済効果はどうか。 ●答 固定資産税は、償却資産などの更新が行われれば増収

の可能性ががあります。入湯税については、一人当たり150円の税収となりますので、税収の増額も見込めるのではないかと思います。住民税については、従業員数や総所得に応じて増減します。また、水道料収入では1日120tを継続的に使用した場合、単純計算で年間1000万円の収入になると試算しています。

●質 食材は地産地消を考えていく必要があると思うが、どのように考えているか。 ●答 食材を安定して供給し、大量仕入れができるように問屋が直接受けるようにします。地域貢献として、米や野菜などは少量でも地元のものを使用していきたいという意向のもと、町の地産地消推進会議も加わって話をしていくところです。

●質 温泉では水利用が必要不可欠で



改修中のホテル木曽路

あるが、1日の水利用は。

●答 ホテルとの打ち合わせでは、1日の水利用は200〜250tの予定と聞いています。

●質 水道水と中水道の割合は。 ●答 町水道の水利用量は把握していますが、中水道は把握していないため割合は不明です。

●質 向ヶ原水源を利用するようだが、渇水時期の住民への影響は。 ●答 ホテル木曽路の営業時に水利用が対応できるよう、

向ヶ原水源を設置した経緯もあり、現時点の計算上では影響はありません。

●質 中水利用の許可申請は可能か。 ●答 従来のものであることは、許可申請はおりないと聞いています。

●意見 渇水時期の対応策、リニアトンネル非常口による水脈変化など、十分に注意をしながら進めて欲しい。

●質 ホテルの営業に支障があった場合、町との補償契約はあるか。 ●答 特にありません。7月中旬には改修工事を終え、オープンに向けた準備が行われる予定なので、引き渡しまでは対応を行っていきます。

●意見 大企業の南木曾、離れがないよう、今後進めていくうえで対策には万全を期して欲しい。

地域おこし協力隊のこれから



早川 親利

地域おこし協力隊の制度や現状は

●質 地域おこし協力隊の制度はどのような内容か。 ●答 国の地方創生事業に合わせた、

●答 国から交付され、950万円が町の支出です。

●質 この事業に係る事業費、町が支出する費用は。 ●答 隊員の年間活動費として一人当たり400万円、隊員の募集に係る経費として1団体当たり200万円が、特別交付税と

いう形で国から交付されます。町からは、社会保険料、雇用保険料、超過勤務手当など平成29年度は240万円程を支出しています。

●質 活動期間中は、厚生年金に加入できるか。 ●答 加入しています。

●質 平成26年度から現在までの事業費は。 ●答 4年間の総事業費は8570万円、国から7620万円が交付され、950万円が町の支出です。

●質 平成26年度から今年度までの募集について応募条件は。また、応募人数と採用人数、任期を終えた人数、定住している人数は。 ●答

**答** 町では、幅広い内容で募集要項を定めています。いずれも3年間の活動後は町への定住可能な人を前提としています。

この5年間で22名の応募があり、その内11名を採用しました。任期満了した人数は4名で、内2名が定住しています。

**質** 任期満了した人たちの成果は、町としての評価は。

**答** 任期を終えた人たちは、それぞれの目的に向けて活動しています。現在の定住者は、家族も移住してきていますので、このようなことも大きな成果だと思っています。現在、農家民宿の運営、近隣のNPO法人に勤めるなどしながら、それぞれに活動をしています。

任期中の隊員についても、空き家を活用したイベントや若者を中心とした催し物の開催、伝統工芸技術の継承な

どを行っており、町の活性化や元気づくりに寄与していると感じています。

**今後の募集方法は**

**質** それぞれ自分の好きな分野に就いているため、偏って活動しているのでは。その様に思っている住民もいると思うが、今後の募集方法は。

**答** 住民の皆さんからも様々な意見を頂いています。今後の募集については、町の課題や可能性に新しい風を吹き込んでくれるような人材を採用したいと考えています。今まで幅広い範囲で募集してきたことで、多くの応募があったと思います。絞ってしまったと人財が集まらないと思いますので、来年度も幅広い範囲で定住の可能性も見越した中で、募集したいと考えています。応募の中から、町が必要とする分野を

希望している人で選考していく予定です。

**意見** 町に何が必要かを良く考えて募集してはどうか。

観光面ではノウハウをもった人、農業面では担い手不足による荒廃農地の増加防止、林

**ミツバツツジまつりのこれから 観光客の増加につながる工夫を**



近藤 隆

**ミツバツツジまつりのこれから**

**質** ツツジまつりの来場者は、平成19年度は1万4千人

だったが、今年度は3千4百人と年々減少している。観光バスは150台が今年は17台と減っている。減少傾向の主な原因は。

**答** 平成23年の東日本大震災により、

業面では荒れた山を再生する担い手などが必ずでないかと思われる。全国では、多くの協力隊の人たちが頑張っている。成功事例を調査・研究し、今後も取り組んで欲しい。

**意見** ミツバツツジまつりは、今年で17回目となり、町に定着してきた春のイベントでもある。これからも多くの人が訪れ、そこで賑わいが生まれ、もともと町が元気になるよう工夫しながら続けていくようお願いしたい。

人の動きが変わったことが原因だと思われる。また、平成26年の梨子沢豪雨災害と秋の御嶽山噴火により、木曾への観光客が激減した影響が考えられます。平成29年度については、開花が遅れたこと、雨天の日が多かったことによるものです。

**観光客の増加につながる工夫を**

**質** これからミツバツツジまつりに訪れる人を増やし盛り上げていく方策として、川西古道の活用が考えられる。現在、通行止めとなっているがその理由は。

**答** 倒木、路肩の崩壊、棧橋が老朽化して危険なため、平成26年度から全面通行止めになっています。

**質** 今後、どのようにミツバツツジ園内の整備を行い、たくさんの方が咲くようにすることや、国道から天白台の眺望を良



17回目を迎えたミツバツツジまつり

**質** 川西古道は、近代化遺産の読書発電所に延びる観光ルートである。江戸時代には、田立から馬で物資を三留野宿へ運んだ歴史のある道である。古道を消滅させないよう早急に復旧できないか。

**答** 安全管理上、現在、復旧の計画はありません。現地調査してみますが、多額な費用が見込まれる状況です。

**意見** 町は、これまで町の「歴史・文化・自然景観」を将来にわたって継承し、その地域資源を使って町の活性化と地域経済の発展

を目指している。ここで原点に立ち戻って、このような貴重な歴史的資産を大切にしたい。

**質** 中山道や古道を歩く観光客にとつて、クマの出没は非常に脅威である。鈴を付けて歩くのがクマ除け対策として一番良いと思う。

**答** 南木曾町独自のデザイン鈴を作り、観光客向けに、南木曾駅前妻籠宿、馬籠峠の茶屋でクマ除けを兼ねたお土産として販売できるように研究していただきたい。

**質** 南木曾町の人口は既に4100人台となり、近い将来4000人を割ることが予想されているため人口減対策は喫緊の課題だが、並行して、町を訪れる観光客の増により町が賑わい、元気がでる施策をお願いしたい。

**答** 提案として受け止めます。

**意見** 南木曾町の人口は既に4100人台となり、近い将来4000人を割ることが予想されているため人口減対策は喫緊の課題だが、並行して、町を訪れる観光客の増により町が賑わい、元気がでる施策をお願いしたい。

### 防災訓練を通して災害に強い町づくりを



松原 崇文

### 今年の防災訓練の予定は

**質** 今年の防災訓練について、予定と詳しい内容は。

**答** 9月2日、北部地区で避難訓練を含む防災訓練を予定しています。

**質** 7地区を順番に回っているが、一区切りつくのはいつか。

**答** 27年から拡大版ハザードマップを使い、地区ごとに住民が自ら危険箇所を把握しています。これについては、あと3年程かかる見込みです。

**質** これから起こると言われている東海地震、東南海・南海地震では、町にも被害が予想されているが地震に対する防災訓練についてどのように考えているか。

**答** 現在、地震に対する防災訓練は、特に実施していません。避難については、基本的には土砂災害と同じと考えますが、住民に対して地震についても考えてもらうよう呼び掛けたいと思っています。

**質** 地震発生時にとるべき行動を、住民に伝えることはできなかい。

**答** この地域では、まず自分の身を守ること、そしてその次に火事を出さないことが重要と考えます。防災訓練などで啓発していきたいと思えます。



平成じやぬけの碑の周辺整備

**質** 役場の中では、地震に対する訓練は行っているか。

**答** 職員については、気象台の方を講師に迎えた防災研修を、7月2日の時間外に行う予定です。研修後に職員で話し合いを行いますので、そこで地震についても話題に乗せたいと考えています。

### 小中学校の地震時避難訓練は

**質** 小中学校の避難訓練では、地震に対する訓練は行っているか。

**答** 小中学校の避難訓練では、地震に対する訓練は行っているか。

**答** 地震に対する訓練は、小中学校それぞれ1年間に数回実施する避難訓練のうち1回行っています。

**質** 今年度は、7月9日に何が行う予定はあるか。

**答** 今年度は、夕方から現地で職員による草取りなどの公園整備を行い、黙とうを捧げる予定です。

**質** その日に防災訓練は行わないのか。

**答** 梅雨末期でもありますので、防災訓練を行うのは難しいと考えています。防災無線を使い啓発活動をしていますので、7月9日に梨子沢災害があったことを付け加えて放送することを考えています。

**意見** 住民それぞれが、7月9日を「思い新たに防災について考えていただける日」にしてもいい。

### 障がい者福祉と高齢者福祉のこれから



矢澤 和重

### 障がい者グループホームをもう一箇所

**質** 障がい者グループホーム「すみ

よし」開所から2年が経過した。高齢化、重度化、「親亡き後」の居場所を見据え、もう一箇所生活の場が必要と思われるが、町の考えは。

**答** 障がい者グループホームは、県の障がい者プランにより木曾圏域で計画的に設置をしています。来

年は大桑村、再来年以降は木祖村に設置予定となっております。現在、町として障がい者グループホームの新設予定はありません。

**質** 日中、就労支援施設「ひだまり工房」や地域活動支援センターで活動している障がい者の皆さんの送迎について、中山間地特有の地形で送迎場所が点在しているため苦慮している。ほかにも人数が増えると送迎車に乗り切れないなどの課題がある。地域活動支援センターには車が無いと聞いたが、町の委託事業として支援できないか。

**答** ひだまり工房への送迎は、社協内で協力して対応していただいています。地域活動支援センターからも話は伺っています。現在は委託内で努力をしていただいています。今後、更に利用者が増えるようでしたら事業者と合理的な方法を考えていきたいと思えます。

法を考えていきたいと思えます。

**質** 高齢者福祉と地域福祉支援について、中山間地は都会と違い、特にヘルパー事業については、木曾から民間事業者が撤退している。南木曾町は、社協が行っているが厳しい現状だ。現状は理解していると思うが町はどのように考えているか。

**答** ヘルパー事業では、移動の距離が往復20キロを超える訪問については、県から補助金を貰っていますが、平成31年度で終わります。町からも社

協へ補助金を出しています。今後、全体の中で町と社協で協議し、決定していきたいと思えます。

**バリアフリー化の促進**

**質** バリアフリー法が改正された。高齢者や障がい者の移動などの円滑化を促進するために、施設などをバリアフリー化する必要があると思うが町の考えは。

**答** 少しずつ整備されていきますが、予算的な制約もあるので、法の趣旨に沿った整備を進めて行く努力も必要だと思っています。

**意見** どの人にとつても「当たり前」を実現するため、町の環境整備をして欲しい。また、心のバリアフリー化を推進して欲しい。

**質** サポーターの時は給はいくらか。

**質** 蘇南高校バドミントン部の下宿

**質** 子供たちの面倒を見るのは体力的にも大変だと思ふ。夏休みも控えており、この人数で朝から晩まで預かると負担が大きいのでは。

**質** 世界各国の食糧援助量が年間320万トンに比べ、日本では「食品ロス」が年間632万トンと約2倍の量を捨てていることになる。



グループホームすみよし



伊藤 寿子

**「放課後子ども教室」「食品ロス問題」3010運動の実施を**

**「放課後子ども教室」のサポーターの状況**

**質** 最近、サポーターが2名辞められたそうだが、利用している子供の人数は逆に増えていると聞く。

**答** 現在利用している児童は55世帯82名、サポーターは11名で、コーディネーターはサポーターの中から1名にお願いしています。

**答** 経験年数などにより8800〜9200円、コーディネーターは9500円、有資格者（教員資格など）は12000円です。

**質** 子供たちの面倒を見るのは体力的にも大変だと思ふ。夏休みも控えており、この人数で朝から晩まで預かると負担が大きいのでは。

**答** やはり人手が足りていないのが現状です。引き続き地域の皆さんにサポーターとしての協力をお願いしているところであります。また、ハローワークでも求人を行います。また、蘇南高校のインターンシップや中学校の体験学習などの機会も計画しています。

引受先もそうだったが、なかなか難しい問題だと思ふ。利用する保護者の皆さんに協力を相談してはどうか。

**意見** 夏休みも近く、大事な子供たちのため、対応をお願いしたい。

**3010運動の積極的な実施を**

**質** 世界各国の食糧援助量が年間320万トンに比べ、日本では「食品ロス」が年間632万トンと約2倍の量を捨てていることになる。

**答** 南木曾町では、この問題について何か取り組んでいることは。昨年（2017年）の広報なきそ12月号に「3

010運動」のことを掲載しています。忘・新年会の時期にあわせて掲載しました。

**質** 5月にリニア懇談会で阿智村議会へ伺った時に「3010運動」を実践して

### 坂下病院の役割の再確認 水田の整備 リニア計画における水資源保全



坂本 満

#### 「医療実態調査」の継続を

**質** 中津川市や木曽南部の住民は坂下病院の外来診療科や一般病床の存続を求めて、短期間に7500筆弱の署名を集め3月の中津川市議会に請願した。

しかし市民病院への病院機能の集約により

いた。食べ残しが少なくて済むため、町でも議会を含め先ずは役場から始めてはどうか。  
**答** 長野県でも奨励していることなので、今後、検討させていただきます。

経営の黒字化を図ろうとする市の方針は変わらず、坂下病院の診療所化がいつそう加速している状況に見える。対応が必要ではないか。

**答** まずは地域の医療機関を大事にし、坂下病院については、情報収集と、それに基づく対応に努めます。改革プランなどによる病院機能縮小に対応するため、木曽病院には出張診療など南木曽の医療を応援していただく方法について、引き続き話し合いをしていきます。



坂下老人保健施設の看板が加わった坂下病院

**質** 昨年の町民アンケートは非常に大切で、半数の住民の声が聞けた。いま町に出来ることは、住民の医療に関する実態を毎年把握し、それに基づいて、中津川市や長野県、岐阜県、国に対して地域医療環境の改善を求めていくことだ。

**答** 町の実態を捉えた資料で訴えることは大切な手法であり、方法を検討したいと思えます。坂下病院の問題は諦めたということではなく、機会があれば関係

#### 機械がハマる水田

**質** 圃場整備をした水田が30年以上経て構造が劣化し、大型機械がはまり込む状況がある。

**答** 水田の構造改善は耕作地の継承には必要で、土建業者の仕事が少ない時期に地域へ還元していける仕事としても、町単独でも制度を考えようか。

#### 妻籠水道水源への知事同意回答は

**答** 土地改良の実態について把握して、何が出来るかを探していきたいと考えます。

**質** 県の妻籠水道水源保全地区の環境審議では、リニアのトンネル工事による水源への影響の有無やその程度については、現状で明確に判断することは困難である」とし、いつその調査などを求めている。

**答** これまで「環境影響評価書」に基づいてJR東海が説明してきた主旨の根拠が崩れているが、

**答** JR東海の対応が当初と現在のところでかなり変わってきており、不備もあつたことを認めているのではないかと感じています。

水資源の問題で譲れないことは、何と言っ

ても変化がないようにしていただくこと、万が一にも対応出来る対策を事前に行うように取り決めておくことです。

**質** 県知事の同意回答書では、文書による確認は事業者が努力することに留まっている。文書を「作る」という回答になっていない。

**答** 県条例に基づく初めての審査案件であるが、水道水源を保全する条例の趣旨が活かされていないが。

**答** 知事の同意書には町からの意見に答えられていない部分や、答申から外れている部分もみられます。確認書を結ぶという方向で町は考えており、JR東海と詰めていきたいと考えています。

また、県の体制や、どのように同意内容が履行されているのかの確認などについては、県と協力していきます。

## 6月定例会 補正予算審議概要

平成30年6月期予算（一般会計、特別会計）が可決されました。

審議の主な質疑は、児童・生徒の防犯安全対策、小水力利活用、久保洞水路橋調査などでした。

### 北原議員

**Q** インターバル歩道の対象年齢や定員、求める結果は。

**A** 住民課長

40〜64歳で約20名の住民が対象です。体力づくりや健康維持が目的で、明確な結果は求めません。

**Q** 町が補助を行っている予防接種を町内診療所に指定できないか。

**A** 住民課長

かかりつけ医がいる人や保護者の意向を尊重するために、完全に指定することは難しいと考えます。

### 高橋議員

**Q** 保育所の遊具はどのようなものが購入されているのか。

**A** 保育園長

これまで、昨年度は読書保育園にボルダリング、今年度は田立保



読書保育園のボルダリング

育園にのぼり棒を導入しました。

**Q** 学校施設や通学路の地震などに対する安全は検証されているか。

**A** 教育長

学校敷地内では、現時点で違法、危険なブロック塀などはありませんが、不安な部分については、さらに検証し対応していきたいと思えます。通学路の安全については、保護者と打ち合わせをしていきたいと思えます。

**関連**

### 赤坂議員

児童の登下校時における安全・防犯対策は。

### 平成30年6月期補正予算（6/20決） 一般会計補正予算 4955万円を増額 総額 37億155万円に

●会計別補正予算 (単位：千円)

会 計	補 正 額	補正後の金額
一般会計	49,550	3,701,550
国民健康保険特別会計	9,322	494,203
簡易水道事業特別会計	7,376	180,052
宅地造成事業特別会計	△ 5,976	13,650
下水道事業特別会計	4,823	114,409
農業集落排水事業特別会計	4,053	78,403
浄化槽市町村整備推進事業特別会計	3,198	104,398

●一般会計補正の主なもの (単位：千円)

事 業 名	金 額
木曾病院線予約制シャトルバス運行委託費	586
保育所遊具購入	512
インターバル歩道事業委託	1,450
小水力利活用事業	19,000
国道19号線視距改良付帯(法面立木等の伐採経費等) 事業	3,800
町道掘立線災害本復旧事業	31,850

**A** 教育長

地域の皆さんに見守りをお願いしていきたいと思えます。放課後子ども教室での見守りも引き続き行っていきます。

**関連**

### 近藤議員

最近、通学路にクマが出没したが、教育委員会では何か対策・対応はされたか。

**A** 教育長

学校から保護者へ注意喚起のメール配信や、クマ除けの鈴の貸し出

しの再周知をするように指示しました。

**関連**

### 松原議員

クマ対策として、射殺は許可されているのか。錯誤捕獲によるクマの放獣場所の決め方は。

**A** 産業観光課長

原則、クマを錯誤捕獲した場合は放獣することになっています。緊急回避の場合に限り、警察もしくは町長の判断で射殺が可能です。放獣場所について

### 伊藤議員

**Q** 農業遺産として久保洞水路橋調査とあるが、内容と価値は。

**A** 教育長

この水路橋は、明治42年建造の石造りのアーチ橋です。その土木技術に価値があり、町の文化財として検討したのち県への申請を考えていくため、調査

をするものです。

**A** 産業観光課長

過去に信州の農業遺産として調査がありましたが、文化財登録には至りませんでした。



久保洞水路橋 (渡島地区)

**Q** 町道妻籠町中線改良工事が延期となったが、来年度以降の計画は。

**A** 建設環境課長

財源となる国の道整備交付金事業の対象になりませんでした。実施時期については、来年度の工事は無理です。

**要望** 観光客、車椅子の人も通るため、早急に工事をお願いしたい。

**関連**

坂本議員

予定していた交付金が来ないために、いくつかの事業が止まっている。代わりの財源見通しは。

**A** 戦略室長

県と打ち合わせ、代わりに都市計画の町並み関係の事業を取り入れるなどの検討を行っています。

他事業についても実施計画見直し作業にあわせて検討をしています。

早川議員

**Q** 役場庁舎の屋根修繕事業の設計委託料が計上されているが、修繕工事の詳細は。

**A** 総務課長補佐

建設されてから30年経過しています。15年くらい前に屋根の塗装を行いました。一部雨漏りや、壁のひび割れもありますので、全体の調査を行います。

矢澤議員

**Q** 国道256号の妻籠駐車場付近にあるマンホール周辺の舗装面が傷んでいるが対応は。

**A** 建設環境課長

現在、舗装面の修繕を行う方向で検討し、実施時期を含めて調査をしています。

**Q** 細の洞用水路の水力活用事業の進捗状況と今後の予定は。

**A** 産業観光課長

現在、申請手続きを行っています。調査は完了していますので、補助金交付が決定しましたら設計を開始します。平成31年度に工事完了予定で、平成32年度から運用開始を予定しています。

**関連**

早川議員

県の補助金が追加になっているが、全体の事業計画は。

**A** 産業観光課長

事業は2年間かかります。総事業費1億4000万円、発電量は32キロワット、年間の売電費750万円、管理費500万円、250万円の利益を見込んでいます。

坂本議員

**Q** 田立、妻籠の雨量計データをネット上で公開出来ないか。

**A** 総務課長

町のホームページに数値データを載せられないか検討をしています。

**Q** 国保の保険税収入が200万円ほど減、繰越金増という状況だが、町の会計の変化は。

**A** 住民課長

国保税の算定方式は従来どおりです。当初の基金残高見込みは1億100万円余で、医療費が昨年度より若干減っています。

**要望** 基金残高が1億円を超える見通しで、国保税は抑制だけでなく引き下げも含め検討していただきたい。

医療費が減っているのは住民の健康が維持されているかどうかという視点からも分析して欲しい。

**Q** 光熱水費が軒並み減額になっているが。

**A** 総務課長補佐

中部電力から別の事業者との契約にしました。10月以降の半年間で180万円ほどの減額を見込んでいます。

近藤議員

**Q** 旧田立中学校の調査目的と、調査結果による対応は。

**A** 教育長

旧田立中学校は、旧妻籠中学校の数年後に建築された建物なので、文化的な価値があるかを調査するものです。調査結果を参考に、旧



文化財調査が行われる旧田立中学校

妻籠中学校保存と併せて検討します。

**Q** 町有牛の購入に100万円計上してあるが、購入予定頭数と、現在の飼育農家数、町有牛の保有頭数は。

**A** 産業観光課長

今年度の購入は1頭です。飼育農家は8戸、保有頭数は5頭です。

**要望** 年々飼育農家数は減ってきてはいるが、町有牛の購入事業は今後も継続をお願いしたい。

# 全員協議会 議会と町の意見交換

—(6月13日・20日)—

- ・南木曾「ウェルネス農泊」
- ・蘇南高校下宿事業
- ・南木曾町障害者福祉計画
- ・空家対策事業
- ・南木曾町老人福祉計画
- ・いじめ防止等のための基本的な方針 (改訂版)

## 南木曾 「ウェルネス農泊」

### 説明概要

南木曾「ウェルネス農泊」推進協議会が進めている計画が、今年度の農水省の農泊推進対策の交付金対象となつていきます。農水省の実施要領(案)では、ソフト対策の農泊推進事業は、上限が1年目800万円、2年目400万円、ハード対策の施設整備事業は、交付率1/2で上限最大5000万円となつていきます。

田立地区の古民家を改修して農泊による滞在型観光客の受入れを行うことを目指しています。ソフト対策の農泊実施の推進協議会は、(株)MENEX(メネックス)、結い庵、高橋溪流の3つの事業主体と助言支援を行う南木曾町で構成されています。また、ハード対策で古民家の施設整備を行うのは、(株)MENE

Xが事業主体となっております。

事業者による計画概要は次の通りです。

自然と文化と宿泊の3つを同時に体験出来る観光を行います。

田立地区は、日本で最も美しい村に認定されている茶畑や田園風景があり、購入した築150年の古民家を改築し、伝統を受けつぎながら、新しい機能性、デザイン性を備えた連泊の出来る高価格帯の宿泊施設とします。

食事には町のスローフードを基にしたメニューも開発します。

また、木曾地域で探検や冒険などアウトドアを体験出来る拠点にし、雨天などは伝統工芸などの体験も出来る場所にしていきます。

### 質疑の内容

**Q** アウトドアの関係は国有林に入っていくことにもなるが。

**A** 県は県立公園の中については、必要であれば検討するというこ

とでした。森林管理署とは、具体的に使用したいものが決まった時点で説明し、許可部分を使うことを考えています。

**Q** 集客の方法や、採算性目途は考えているか。

**A** アウトドアも含めて一泊一人5万円以上の高価格帯となり、来客の半数は外国人になる予定です。

集客については、海外客の見ているサイトで魅力的な内容を示していくこと。木曾を訪



農泊が計画されている田立の古民家

れる外国人の動機の8割が自然であり、必ず見るサイトの中に「自然が楽しめる」ということを強調して書けること。また、日本人客には、海外の人が認めることが一番の広告効果になるのではと思っています。

## 「空家対策総合支援事業」の今年度予定

### 説明概要

3月議会で審議した「南木曾町空家等対策計画」および「空家対策総合支援事業」を導入する田立大滝家と妻籠田原家・櫻井家の改修事業について、当初予算の組み替えをします。

### ◆大滝家

補助事業に組み入れて補正後の予算額は、2960万円(設計委託247万、工事請負費2300万円、用地購入費413万円)です。

今年8月上旬に大滝家の工事着手を予定しています。

### ◆田原家・櫻井家

当初予算の3千万円を800万円に減額(設計委託340万円、工事請負費460万円)します。

櫻井家の土地建物は5月に町が寄付を受けました。田原家と同時に対策を講じたいです。今後地元および地権者と協議をして、整備内容を検討する必要があります。事業内容確定後、年度内の設計委託の発注を予定しています。

### 質疑の内容

**Q** 大滝家の売りに建物が含まれているか。設計委託の予定は。

**A** 用地購入費は土地と建物を併せた金額で、設計事務は小倉設計事務所が落札しています。田原家についてはこれからです。

**Q** 櫻井家は取り壊しという考えで進んでいるのか。

**A** 寄付があり今後の利活用を検討します。地元下町区では集会所的に利用したいという意見もありますが、状況により除却も含めて関係者と協議します。

**Q** 他の地区でも同様に寄付して除却ということが出来るのか。

**A** 空家の除却活用方法として、この総合支援事業があります。

その場合、基本的要件として土地建物の寄付と跡地を地域で活用するという条件を整える必要があります。

**Q** 公的場所としてどのように活用するのか。妻籠だからやるのか。壊してから考えるというのでなく、慎重にやる必要がある。

**A** あくまで空家等対策計画に基づく空家対策事業です。妻籠だからやるということではなく、町全体に関わっていくことで、十分配慮しながら慎重にやっていきます。

### 蘇南高校下宿事業補助の見直し

#### 説明概要

平成28年度から蘇南高校生の下宿事業補助を行っていました。町から蘇南高校同窓会に下宿事業の補助金を交付し、同窓会から下宿事業受託者に委託料を支払っています。

今回、空家活用型下宿事業受託者の業務実態に合わせた補助金の算出方法の見直しを行いました。

#### 質疑の内容

**Q** 受託者は委託料について納得しているか。

**A** 受託者とは、見直し後の金額について話しをし、了承いただいています。

### 今後3年間の「南木曾町老人福祉計画」を策定

#### 説明概要

南木曾町の平成30年1月現在の高齢化率は41%を超え、木曾郡40%や長野県平均31%を上回るペースで進んでいます。こうした将来を見据え高齢者の安心と自立した生活への支援、生きがいや健康づくり、介護予防の推進、認知高齢者への支援、地域包括ケアの取り組み、住み慣れた地域で健康で暮らせる町の実現を目指すために、

- ①高齢者の生きがいづくり・社会参加の促進
  - ②介護予防・健康づくりの推進、③地域包括ケア体制の整備、④認知症ケアの推進、⑤高齢者の権利擁護体制の整備を重点に推進します。
- 長野県老人福祉計画、第7期介護保険事業計画（木曾広域連合）、南木曾町総合計画等と整合した平成32

年度までの3年間の計画です。

#### 質疑の内容

**Q** 現在の緊急通報システム利用者数は。周知は行っているか。

**A** 現在31名が利用しています。

個人契約では月々約950円ですが、役場から申請をした場合には月410円の自己負担となります。包括支援センターやケアマネージャーの訪問時に、必要な場合にに応じて勧めるようにしています。

**Q** 利用者本人だけではなく、利用者の家族の希望で利用されることもあるのでは。幅広い周知をしてはどうか。

**A** 町広報誌などにより多くの住民に周知をしていきたいと思えます。

**Q** 計画書の、徘徊という表記は適切な表現か。

**A** 策定委員会では特に指摘はありません。

した。不適切な表現の場合、今後は違う言葉に言い換えて計画を進めていきたいと思えます。計画については、既に策定をしているので改訂時に検討させていただきます。

**要望** 相手の立場に立って、適切な表現を検討していただきたい。

**Q** 宅老所とヘルパーステーションの施設設計画は。

**A** ヘルパーステーションは、社会福祉協議会事務局内に設置されていますが、訪問時の移動が田立からでは大変なので、町中心部での開所の要望があります。

宅老所併設の意見もあります。宅老所は利用者の動向を見ながら検討をしていきたいと思っています。

**Q** 医療・人材の確保には、具体的な計画内容や指針、実態調査などが必要だと思うが。

**A** 庁内地域医療検討

チームでも、坂下病院の状況を見ながら、より良い方向に進めていけるよう検討を進めています。

**Q** 町内の高齢者は1700名以上いるが、老人クラブ会員数は563名である。地区によつて入会できる年齢制限や条件があるのか。

**A** 地区ごとの細かい状況は把握していませんが、新しく入会する人が少ない傾向にあるようです。

**Q** 地域によつては老人クラブが中心となつて活動しているところもある。町として何か対策をしているか。

**A** 町として老人クラブ入会に関して特に施策は行っていません。

**Q** 認知症カフェ事業の状況は。

**A** 現在、三留野地区と田立地区の2ヶ所で開催していて、主に包括支援センターと実行委員で運営しています。

将来的には開催場所を増やすことを考えています。



認知症カフェの行われている桃介亭

**Q** 独居や高齢者のみの世帯の生活実態や緊急連絡先などを確認する実態把握事業の実施状況は。  
**A** 民生委員に協力していただき、毎年実施しています。平成29年度の実態は総数362人、独居が283人、住所はあるが子どもなどの家にいる方が28人、入院や施設に短期入所している方が43人、死亡が8名です。

平成30～35年度の「南木曾町障害者福祉計画」策定

説明概要

第10次南木曾町総合計画に掲げる「誰にでも優しく、身近で頼りがいのある」福祉推進のため、\*ノーマライゼーションの理念の下、障がい者等の自立と社会参加を支援し住み慣れた地域で個性を生かしつつ社会の一員として自立した生活と活動ができる地域社会を目指し、①障がいへの理解と権利擁護の推進、②地域生活の充実、③地域共生社会の実現を重点目標に掲げ、(平成30年度～35年度)取り組む計画です。  
 ※ノーマライゼーション：どのような障がいを持つ人であっても特別視されることなく、社会に生活する個人として、一般社会に参加し行動できるようにすべきであるという考え方

質疑の内容

**Q** 各年度末の施設入所者数の実績と成果目標の示す対象施設は。

**A** 障がい者の入所施設が該当します。グループホームは含まれません。なお、町内には該当施設はありません。

**Q** 就労系サービスの就労継続支援(A型)の施設は。

**A** 町内にはありませんが、郡内に1箇所あります。

要望

グループホームのニーズは大変高いと思う。もう一箇所必要と思われるので、今後計画の中で検討して欲しい。また、外に出てこない・出てこれない人も参加しやすい環境づくりをお願いしたい。

**Q** 障がい児の場合、町から近い中津川市など県外施設への入所は可能か。

**A** 入所について、一般的に障がい児の場合は難しいと思いますが、

障がい者の場合は、木曾圏域外の施設入所について県内の広域調整という体制があり地元優先ではありませんが、施設に空きがあれば入所できます。県外については、このようなルートがないため、応相談になると思います。

**要望** 県境における制度のあり方について行政としても工夫が必要で、県との会議でも要望を出すなどして取り組んでほしい。

いじめ防止等のための基本的な方針(改定版)

説明概要

平成25年9月にいじめに関する法律が施行され、平成26年に県で平成29年には町が「いじめ防止等のための基本的な方針」を策定しました。

今年4月、県において新たな改定があり、これを受けて町の基本方針も改定作業を進めています。

◆改定案における主な改定部分

・教職員が自ら人権感覚を磨く・「SOSの出し方に関する教育」の推進・LINE等SNSの活用による相談の仕組みの検討・職員研修の内容の見直し・保護者自身の専門機関への相談・児童生徒への相談体制の整備・重大事態への対応の見直し・再調査方法の見直しなどです。

質疑の内容

**Q** 改定案を見ると現場の先生が一番大変かと思う。今回も先生の研修が付け加わっているが、それなりに先生達の余裕、ゆとりがないとおそろそかになってしまふ。方針が担保されるような現場環境の配慮は。

**A** 町では毎年、保小中高の先生方の合同研修会を開催しています。研修については学校任せではなく、町も教育

委員会も一緒になってより良いものとなるよう取り組みます。

**Q** 方針は学校関係者に比重を置いているが最近では貧困の問題もあり、大人社会の背景が知らないうちにいじめにつながるっている。互いに尊重し合って個人の尊厳を認め合っている社会にしてい

**A** 町長部局の人権の所管課と協力しながら、地域での人権対策についても取り組んでいくことを課題として共有していきたいと考えます。

高校再編計画の現状報告

報告概要

今年3月に県教育委員会の実施方針案が出されました。それに対するパブリックコメントがなされ、現在、募集され取りまとめ中で

す。

9月には実施方針が策定され、再編・整備計画策定に移っていきます。

計画策定に当たっては来年2019年9月までに各地区で地域協議会を作つて協議することになっていきます。

現在、上伊那地域では高校再編地域協議会が発足しています。

木曽郡には、木曽青峰高校と蘇南高校の2校があり、今後、協議会をどのように組織するかこれからその打ち合わせに入るところです。

協議された意見や地域住民の意見、県と協議を進め、2021年3月には「再編整備計画」を確定する予定になっています。

**質疑の内容**

**Q** この町でも協議会を作るのか。協議の目的は高校の存続になるのか。

**A** 木曽の通学区の中での再編をどう進める

かという協議なので、協議会は木曽郡で1つです。

協議会は県の実施方針に基づいて、木曽地域として将来の高校の望ましい方向をどうしていくかを木曽郡全体で考えていく場です。

地域として、例えばこんな特色を持った学校をやっていくべきだとか、あるいは経済界からこんな人材が欲しいなどの意見を出し合う場と考えています。

また、通学の問題では、通学区の距離が木曽は長いことを考えたらうでの望ましい高校といった意見なども取りまとめ、県にしっかりと訴えていく場であると考えています。

**Q** 現状では、蘇南高校の人数にしても統廃合にしても県の姿勢は変わっていない。160人を切れば2年後には統合か合併をなさないといいことは、いまのところ変わっていない。

木曽郡下では、あくまで高校存続を目的とする協議会を立ち上げて県に持っていく方向でやってもらいたい。

**A** 現在、広域の連合長である木曽町長に県から協議会設置の要請があり、各町村長にその要請が伝わっている段階です。

高校2つを1つにするというための協議会ではないということは認識しています。地域の子どもが減っていく中でどのように教育環境を保証していくかを議論し、県にもものを言っていくこと、また地域住民のなかで共有理解していく協議会にしていかななくてはいいないと思います。

**要望** 5年、10年先によほど魅力のある、特徴を作らないと生徒は集まらないと思う。みなで考え県の指導によつた協議会ではないようお願いする。

**リニア新幹線対策特別委員会報告**

(委員会は議員全員で構成)

5月17日、阿智村コミュニティー館に於いて、阿智村議会と南木曽町議会のリニア特別委員会合同会議を開催しました。

昨年に引き続き2回目の開催となり、今回は阿智村内の発生土置き場候補地等の現場視察と委員会の活動状況、両町村の動向についての報告と意見交換を行いました。

阿智村の動向について、萩の平非常口から71万立方メートルの土が発生する見込みであるが、発生土置き場が決定していないため工食用道路の具体的なルートも未定となっている状況が報告されました。

課題とリスク削減については、両町村が連携し県や国に要望していくことが有効であると確認しました。

**阿智村での現地視察**



萩の平非常口付近



小黒川沿いでの見学の様子

聞いて

私の思い

妻籠地域振興協議会  
平成30年度会長  
伊藤 金吾さん



直球  
いま日本は、少子高齢化どころか人口減少に歯止めがかからない。現在、4200人を割ってしまった南木曾町だが、その要因は様々だと思う。  
しかし、少なくとも行政の施策に起因する部分はあるんじゃないだろうか。  
20年、30年後への投資がされなかった結果、人口流出に歯止めをかけることができなかった。20年後にはさらに3000人を割り込むと予想されているが、今からでもできる投資はないだろうか。  
それは、まず保育料の無償化。町民が皆で子育てをする、当然行

少子化・人口減に歯止めは？

政職員にも多少の負担のお願いが必要で、例えば平均5%の給与カットである。  
さらに将来自分の持ち家となる町単独で建てる住宅。土地造成費込みの1千2百万円に抑えて15年間の家賃を2万3千円、その後15年間は倍額の4万6千円とし、最終的に30年で自分のものとなる住宅建設を年2棟、10年間目標とする。  
優良賃貸住宅等が必要なのか、もう一度検証の余地があると思う。  
目先にとらわれず、思い切った施策を打ち出すことはできないものだろうか。

議会の傍聴にお越しく下さい

定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）開催されます。詳しい日程などについては、音声告知端末放送、ケーブルテレビなどでお知らせします。

※6月の議会は、2日間で5人の傍聴がありました。  
20日には、小学生30名（職員2名）が傍聴席で見学されました。



編集後記

5月16日深夜、歌手の西城秀樹が亡くなった。私は1才年下の新御三家ドンピシャ世代です。

初めて買ったレコードは野口五郎の「青いリンゴ」。特にファンクラブに入っていた訳ではないけれど、いつも第一線で活躍している彼らは私達世代の誇りでもあったと思います。

訃報を聞いたのは、17日、ちよūdō「リニア対策委員会合同会議」で阿智村へ向かうバスの中でした。何とも言えないシヨックでしたが気持ちを切り替えて、現場視察、会議に臨み、新たな阿智村の状況も見えて来てとても良い刺激になりました。

やはりそれぞれの町村には違った立場や問題があり、個々に解決するしかないということが改めてよく分かりました。

12名の内3名が女性議員という阿智村議会です。いろんな意味で「もつと頑張らなければ」という想いを新たにしたいところです。ヒデキも頑張ったように…。

議会報編集委員

坂本 満  
近藤 隆  
伊藤 寿子 記  
早川 親利